

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ（文責：岡本恒和）	支出伝票No.	
事業名	兵庫県豊岡市・ウェルビーイング型体験カルチャー「ネオカル TOYOOKA」		
事業区分（該当へ○）	① 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

豊岡市の6つの地域、特色を活かしたまちづくり「六面体豊岡」の取組みと「ネオカル TOYOOKA」のコミュニティ・ツーリズムを調査する。市民、学生、事業者等の共創による持続可能な交流、健康増進、文化・スポーツの取組みを行っており、市民と来訪者が交流を楽しめる場やつながりの機会を創出しており、先進取組事例として調査研究するため調査地に選定した。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年7月30日（水） 13時30分～15時00分	豊岡市役所 ・観光政策課 課長 中田啓之様 ・観光政策課 係長 沖中正孝様 ・観光政策課 主任 大谷理紗様 ・議会事務局 局長 坂本英津子様 ・ 主事 菅谷祐一様
報告内容・実施したこと	1、視察先（市町村等）の概要	
	兵庫県豊岡市 平成17年（2005年）4月1日、6つの市町合併により市制施行 面積：697.55㎢ 人口：74,604人 世帯数：33,722世帯（2025年3月31日現在） 財政規模（2025年度当初予算）一般会計歳入 51,180,000（千円） 北近畿エリアの地方都市で温泉、海、山、城下町、農村…と多様な環境。 カバンのまちとしてカバン産業が盛ん。 主な名所は、開湯1300年の歴史を持つ木造三階の旅館が軒を連ねる温泉街「城崎（きのさき）温泉」、山陰海岸ジオパーク（世界ジオパーク）のメインスポット「玄武洞（げんぶどう）公園」、信州上田ゆかりの300年の伝統「出石（いずし）皿そば」、日本で最も標高の低い高原リゾートで1年を通してアウトドアが楽しめる「神鍋（かんなべ）高原」、世界ジオパークに登録された「竹野海岸」、花のまち但東「チューリップまつり」など。 主な特産品に「津居山カニ（松葉ガニ）」、「但馬牛」、「コウノトリ育むお米」などがある。	
	2、視察内容	
	【豊岡のまちづくり】について 食、自然、温泉、アート、城下町、伝統産業…。それぞれの個性が際立つ6つの地域が一つに凝縮している豊岡を、どう転がっても面白い目が出る六面体、「豊岡六面体」と銘打ち展開している。 (1) 豊岡市の産業部門別 域際収支のトップ3 1. 宿泊業（+飲食業）（観光） 2. カバン産業 3. 農業（米）	

(2) 豊岡市の外国人観光客延べ宿泊数の推移

2019 年：63,648 人

2024 年：78,699 人（2019 年比+23.6%過去最高を記録）

(3) 豊岡市の観光入込客数（2024 年）

○日帰り客数：約 203 万人

○延べ宿泊者数：約 83 万人

(4) カバンのまち（カバン産業）

明治時代から衣装ケースを作っていたが、時代の移り変わりでカバン産業が発達してきた。日本一のカバン生産量を誇るまちとして「カバンストリート」には数多くのカバン店が軒を連ねる。

鞆に使う部分を切り抜いた後の革、漁網（ぎょうもう）再生素材、廃材を利用した小物づくりで、持続可能な社会を目指した取り組みを行っている。

鞆組合が運営する「カバンアルチザンスクール」（定員 13 名程度）では 2014 年の開校以降 100 人以上が卒業し、卒業生の約半分が市内の鞆企業に就職しており、次代の担い手を育てている。

(5) コウノトリ野生復帰とコウノトリ育む農法

1971 年コウノトリは豊岡あのかを最後に生息地として日本の空から消えたが、2005 年豊岡の地から再び日本の空へ。（2025 年 500 羽を超える）

コウノトリの餌となる生きものが生息できよう無農薬・減農薬の田んぼで作られる「コウノトリ育むお米」。市内の水稲作付面積の 19.1%にあたる 512ha で作られている。最大の消費地は特に営業をかけた沖縄県で 400 トン以上。海外にも販売。

(6) 演劇のまちづくり「豊岡演劇祭」

豊岡演劇祭は様々な地域課題解決への取組を進める契機として位置付けられている。

○観光：城崎温泉は 9 月は閑散期で観光客誘致拡大を目的に 9 月開催とした。

経済波及効果は約 1 億 8000 万円（2024 年）

○市民参加：観光客も市民も交流。大学生が運営に関わり関係人口の増加。

○次世代育成：演劇的手法を使ったコミュニケーション教育を市内全校小 6、中 1、高校の授業で実施。

(7) 4 年制公立大学「芸術文化観光専門職大学」の誘致

○2021 年 4 月開学

○学部学科：芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科

○定員 80 人/学年

2025 年 3 月の卒業生 61 人のうち、8 人が豊岡に定着。

(8) 一般社団法人 豊岡観光イノベーション（TTI）

当該地域の関係者の力を結集し 2016 年設立、来訪者、滞在日数、消費額、観光まちづくりの参加者を増やし地域経済の活性化に寄与することを目的としている。

TTI が現場の最前線、行政（観光政策課）が観光施設の管理、観光政策全般と協働で進めている。

○海外向け外国語版観光公式サイト（ビビット城崎）の運営と Web マーケティング

60 の体験プラン（メニュー）を販売。

ユーザー数は 2024 年度 698,664

2019 年度の 3 倍、2023 年の 1.5 倍に伸びている。

【ネオカル TOYOOKA】について

○2019年3月「国内誘客促進強化のための情報発信戦略」を策定。

○目指すべき姿として、共感や交流を軸に旅先を選び、楽しむ「コミュニティ・ツーリズム」の確立を目指す。

○コロナ禍で生まれた価値観（健康・幸福志向、環境への配慮、自然志向）に対応した体験カルチャープログラムを開発する。

(1) 豊岡発＝ネオカルチャー

『健康で幸せにつながる体験カルチャーの創出による「まちづくり」』

① 誰もがイキイキと幸せに過ごすことができる新たなライフスタイルの構築

② 市民と来訪者がつながり、相互に交流を楽しめる場やつながりの機会創造

(2) ネオカル TOYOOKA プログラムの推進体制

運営／豊岡市（観光政策課、健康増進課、文化・スポーツ進行課）

芸術文化観光専門職大学 高橋伸佳 研究室、豊岡観光イノベーション
業務／ブランドの普及啓発、プログラムの認定、プログラムの販売等

以下の3つのカテゴリに即したプログラムの募集と相談会の実施、認定審査会の実施、認定したプログラムを公式サイトで販売。

①アウトドア&スポーツ →「挑戦と成長」

②リトリート&ビューティー →「癒しと健康」

③ワーケーション&ブレジャー →「芸術と創造」

※販売中のプログラムの一例

「但馬牛といっしょに歩くアニマルセラピー（試食付き）」

→牛と一緒に散歩したあとは、感謝の心をもって但馬牛を試食

（これは畜産農家さんの企画）

【ネオカル TOYOOKA】のコンセプト

(1) ネオカル TOYOOKA 日本初だという理由

「創発と共創を持続的に生むウェルビーイングエコシステム」

○単なる観光・旅行でもなく、健康増進活動でも文化・スポーツでもない、領域を超えた体験カルチャー

○ターゲットは市民、来訪者双方

○着地型観光やニューツーリズム、健康増進、文化・スポーツプログラムという括りなし

○誰でもサービス提供者になれる！オープンソース型発想（開発基準開示）

(2) 豊岡市の人口問題からみる「ネオカル TOYOOKA」事業の必要性

○人口は2040年に57,770人になると推計（2060年には38,529人）

→交流人口、関係人口の創出

○高齢者は26,892人、高齢化率33.6%

→健康増進、介護・福祉の新たなソリューション

○若者回復率（2010年から2015年時点での10歳代の転出超過数に対し、20歳代の転入超過者数が占める割合）は39.5%と低位

→さらに魅力的な産業とライフスタイルの創造

(3) 社会背景の変化からみる「ネオカル TOYOOKA」事業の必要性

○テクノロジーの発達による働き方や生活の変化。テレワーク、リモートワーク等に伴う健康問題。

○「幸せかどうか」が問われる社会に。しかし…世界幸福度レポートにおける日本の幸福度は54位。

(4) 今後の展開について

○BtoB（企業間取引）：市外の団体や企業をターゲットにマーケティングを実施。コウノトリ、農業、カバン、地域の魅力を掛け合わせて
○ネオカル TOYOOKA を通じて、企業内のみならず企業間の交流を図り、働く世代の健康意識の向上やウェルビーイング、繋がりづくりへ（定着率向上）

（5）ブランドの推進によって目指す姿

○市民や来訪者があちこちでランニングやウォーキングなどのスポーツを楽しんでいる
○市民や来訪者が豊岡の地産地消の食を楽しんでいる
○市民や来訪者が豊岡の大自然を活用して、休養・保養をしている
○市民が豊岡の温泉等を活用した健康的なライフスタイルを楽しんでいる
○市民と来訪者が交流を楽しみ、新たな人間関係を育んでいる
○来訪者が豊岡市を何度も訪問したり、長く滞在している

3、質疑応答

1. プログラムに参加した住民や観光客からの反応については？

「純粋に楽しかった」という意見のほか、「今日のアドバイスを活かして子供たちのサポートができれば」、「今後の生活に活かしていきたい」、「継続的な健康につながる」という意見も多くある。

2. 取り組みを地域で行う際に、どのような点に注意すべきだと考えるか？

○学識のある方に参加してもらうことは大事だと考えておりソリューションをうまく見つけていく必要がある。BtoBを今後狙っていくところではよりそういったエビデンスが必要。
○付加価値を付けてアイデアを提供しているということもあり、単価が上がってしまう懸念がある。

3. 参加者の傾向は？

○兵庫県内から 56%、大阪府から 20%、京都府から 10% 他
○年代別では 10 代 5%、20 代 8%、30 代 13%、40 代 20%、50 代 20%、60 代 26%、70 代 8%
○兵庫県内市区郡別では、豊岡市からが 45%、豊岡と同じエリアの朝来市、美方郡など含めて 7 割を占めている。

4. 人員確保は？

事業者任せにしているが兼業で取り組まれている方が多く、人員は十分には確保できていない側面がある。

5. 一年を通じて豊かな食材に恵まれているのか？

全てが食のプログラムではないが、季節や健康の影響、仕事との兼ね合いで、例えば農業体験での食材を収穫するプログラムの場合、収穫が本業の収穫の時期と被った場合には人員不足となり、十分に提供しきれない現状がある。

6. 無農薬の田んぼの推進の取り組みは、どのようなものか？

補助金だけでなく、手間暇かけ研修も行いリスクも背負って取り組んでいるので付加価値をつけて買い取ることが必要とのことから農協にも大変に協力いただいた。それが環境と経済が共鳴していくことにつながる。

	7. 専門職大学の誘致の経緯は？ 地方創生の一環で「突き抜ける政策」を進め、演劇界の第一人者が豊岡に公演に来た際、採算性の悪い県立施設の活用を相談したことをきっかけに、そこから勉強を色々深め、芸術文化がまちづくりにどう寄与できるかを整理していく中で大学誘致、演劇のまちづくり「演劇祭」にも繋がっていった。 8. 大学の卒業生は地元に残ったか？ 61 人の卒業生のうち、8 人が定着している。
感想（まとめ）・市に活かせること等	4、感想 ・ 大学誘致の強みを最大限に活かし、交流人口、関係人口の増加につなげている。 ・ 豊岡市の取組は飯田市の二歩、三歩先を行っており、行政の取組姿勢も前向きかつ挑戦的であり、飯田市の模範としたい。 ・ 非常に先進的な取り組みをしているが、果たしてそれが市民にどう受け止められているのかが気になる。尖った施策は同業者には評価されるが、では実際に尖った政策によって市民益がどれほど向上したのか？それがデータで出せたとしても、「良くなった」と市民に実感されているのか。 ・ 質疑の中で「市民を巻き込んだ観光（交流）を実現したい」とあった。飯田市でも人形劇フェスタの地区開催などがあるが、開催する地域側としては負担感を感じることもある。説明をいただいた「市民を巻き込む」の意図をどう捉えるのが良いのか。 ・ 元々良い温泉地域があり環境は良い。そこに何をプラスに持っていくかが必要。 ・ 六面体豊岡のロゴ、アイデアが良かった。 6つだと多いので、せめて3つくらいは自慢できる何かが欲しい。 ・ 豊岡市は飯田市と面積や人口などが似ているが、ネオカル TOYOOKA をはじめ先進的な取り組みが行われている。元々観光業が盛んではあるが「芸術・文化」でまちづくりを行うと決め、尖って、突き抜ける政策をされている様に感じた。 尖って突き抜けるからこそ、他と違う特色が生まれ、人々が訪れてみたいと感じるのではないかな。

・豊岡市は街の特性を存分に生かしている、八方美人的な市政ではない。これは、一方では外部受けするし、街の魅力にもつながる、しかし、一方では、重点項目以外の施策がおろそかになるおそれもあり反感を持つ市民も出てくる、どちらが正しくて間違っている、という問題ではない。

・カバン産業を育む取り組みが良い。スクール卒業生半数以上が地元へ就職している。

5、今後飯田市に活かせること等

・体験型の観光誘致は、飯田市でも取り組んでいる。違いは受け入れる側がどれだけ楽しめるか。

・行政の取組姿勢（前向きで挑戦的）を裏打ちするエビデンスがあることと、アウトプット（実行）するだけでなく、住民満足（ベネフィット）を観測し、それを政策サイクルに活かしている点。

・「観光」ではなく「交流」という考え方・捉え方。

・市民のウェルビーイングとヘルスツーリズムを融合させた考え方。

・飯田市も平均的に良いことをしているが突き抜けたことが少ない。

・環境と経済は共鳴する。（無農薬・減農薬の）付加価値の高いお米を作ると高い値段で売れて、それが環境と経済が共鳴していく。

・観光を考える時に、観光と地元市民とのつながりを意識する視点が必要であり、その為にも市役所の横断的な取り組みが不可欠である。

（3）この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派新政いいだ（文責：正木利幸）	支出伝票No.	
事 業 名	廃校を活かして自然と暮らしを楽しむ拠点【NATURE STUDIO】		
事業区分（該当へ○）	① 調査研究費 ② 研修費 ③ 広報費 ④ 広聴費 ⑤ 陳情等活動費 ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費 ⑧ 資料購入費 ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

昭和時代に建築された社会インフラが人口減を迎え必要と無くなってきている。それを取り壊すのではなく活かすことで地域社会の発展に寄与しようという試みを調査する

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年 7月31日（木） 10時00分～ 12時00分	有限会社リバーワークス 上戸了子 様

報告内容・実施したこと

1. 視察先（市町村等）の概要

兵庫県神戸市

人口 1,487,267 人 世帯数 755,447 世帯（令和7年7月16日現在）

視察先の兵庫区は、

人口 110,721 人 世帯数 66,451 世帯

神戸市は政令指定都市ではあるが、視察先の兵庫区は、市中心部の西山寄りに位置し、震災の影響も少なかったため、昔の面影を残している。山にも近く高層マンションも少なく、神戸市の中では自然豊かな場所である

2. 視察内容

① 【NATURE STUDIO】の経緯

2015年に湊山小学校が廃校となり、地域の4小学校が一つに統合された

2018年に市役所が、民間事業者へ廃校の活用方法を調査依頼したところ、村上工務店が認定を受け、事業を展開

2022年にオープン

村上工務店は事業主であり、年商50億円、社員80名の総合建設業である。

運営主体のリバーワークスは、村上工務店の子会社であり、街づくりの企画・運営などを行っている

② 【NATURE STUDIO】立地の特性

兵庫区は平清盛ゆかりの地である。戦災や震災の被害が抑制的であったため、木造密集住宅地が残っている

主要駅からあまり遠くはないがバス便が敬遠されていて駐車場適地も少ない。

以上を検討して、将来的には、空き地や空き家を利用して緑豊かな住宅地になると未来図を描く

緑豊かな自然環境を魅力とした暮らしやすいエリアへと進化していくために、廃校を活用して、自然と暮らす地域を創っていくことを目的とした

③ 【NATURE STUDIO】のコンセプト

まず一つは、地域と密着していること、そのために、廃校内に保育所や学童保育所、高齢者のデイケアサービス、クリニックなどを設ける

次に地域外からの集客を求めて、水族館やビール醸造・販売などを行う

それらをつなぎ合わせるために、飲食店やハーブ店などを設ける

④ 【水族館】のコンセプト

民間事業による小規模な水族館

「生き物と語る」をテーマにリピーターが期待できる水族館の時間の過ごし方を提案

⑤ 事業スキーム

校舎と体育館は有償譲渡、土地は15年間の定期借地権

事業費 約13億円（うち建築工事費は10億円）

水族館事業に関する補助金はあり

⑥ 地域への波及効果

設立初年度は珍しさもあり年間15万人の集客があった。

80人規模の雇用を創出することができた。従事者が施設内の保育サービスを利用できるなど相乗効果も生まれる

交通利便性がそれほど高くなかったため、市のバス路線と連携して『市バス沿線を楽しむマップ』を作製した

⑦ 【NATURE STUDIO】がもつ意義

学校の機能を引き継ぐことで、地域と一つになった施設として、子育てを軸としたコミュニティづくりに貢献できている

また、訪問医療や介護など地域の福祉活動の場としてのコミュニティ施設として活躍している

さらに、地域コミュニティの場所として様々なイベントを開催している

3. 質疑応答

1. 4校の統廃合とあるが、他はどのような形をとったか？

1校はサービス付き高齢者向け住宅、もう1校は商業施設マンションになっている。校舎の特性を生かして活用しているのはこの1校だけである

	2. 経営面ではどうか？ 水族館の利用増が貢献して今のところ黒字経営である。どこの水族館もそうだが、最初は目新しさもあるので集客増は見込めるが、今後さらなる対策を練る必要がある 3. 事業を計画立案したときに重視したことは？ 村上工務店の社長は、校舎を活かすことで社会的意義が増し、地域課題解決にもつながる、と考えて決断した。ちなみにサウンディング調査時に他社の提案はすべて、単なる跡地利用、または売り上げ増に関わるものだった。 4. 事業を進めていく上での懸念は？ 15 年間という定期借地権。 15 年で事業資金を回収できるか不安である、せめて 20～25 年くらいは欲しいのが実情
感想（まとめ）・市に活かせること等	2、感想 神戸市は大好きな街で何度も訪れていたが、この場所は観光客のものではなく、まさしく地域住民のものである。そして、事業主の村上社長の先見性が活きている。これからの時代は、地域づくり、人づくりが大切で、そのために意義ある施設を創ろう、という考えが至る所に見られる。そして、施設内にある多くの場所や物がすべて繋がっている。地域内で暮らす人々が集える場所でもあるし、近隣市町村から日帰りでふらっと楽しめる場所でもある。 ・リノベーション前に卒業生や近隣住民に丁寧な説明とお別れ会を実施され、理解をえられていること。 3、今後飯田市に活かせること等 複合的な地域拠点というコンセプト 一つの場所でいろいろなサービスが受けられるため、必然的に人が集まり、にぎやかさが生まれる、そしてそこに雇用も生まれる 所謂コンパクトシティの概念である。 飯田市は面積が広く拠点もあちこちに点在している。一つの場所に集約していく方向性も大いに考えられる。 この水族館のように、指定管理から委託運営など収入を増やす方法もあるのではないと思った。 ・飯田市において今後課題となってくる「廃校の利活用」は、会派の政務調査項目の一つとして位置づけ、他の先進事例視察も含めて調査活動を続けていければと考える。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ（文責：岡本恒和）	支出伝票No.	
事業名	兵庫県神戸市 地域共生拠点・あすパーク		
事業区分（該当へ○）	① 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

震災後の生活課題を、つながることで解決を目指し共生の精神を大切にしながらの様々な活動、中間支援の取組みを視察する。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年7月31日（木） 13時00分～14時00分	地域共生拠点 あすパーク 神戸市灘区中郷町5丁目1 大和公園内
報告内容・実施したこと	1、視察先（市町村等）の概要	
	「地域共生拠点・あすパーク」は認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸が、阪神淡路大震災後 25 年を機に建設した民設民営の施設である。	
	震災後、神戸のまちは復興したが、近年は少子超高齢化による家族機能の低下、格差による社会の分断、地域コミュニティの脆弱化が進行し孤独死、引きこもり、子どもの貧困問題等かつてない生活課題が顕在化している。このような課題を解決するため、協働の場として、サポートの場として、またプログラム等の調査・開発・実施をする場となっている。	
	中間支援事業として、NPO などの団体を立ち上げる支援を 30 年で 1,000 件の実績。	
	5 周年を迎えた 2024 年度は年間 7,800 名の利用、4 団体の立ち上げ支援、25 団体が定期利用する拠点となっている。	
	施設は震災直後、実際に避難所となった大和公園内にある。	
	2、視察内容	
	(1) どのような人に向けての場所なのか	
	1. 定年後、ボランティアや社会貢献活動で仲間をつくりたい。趣味だけでなく、キャリアを活かして社会に役立ちたい。	
	2. 得意なことや好きなことを活かして講座を開きたいが、一人で開催するのは不安。集客のことも相談に乗ってほしい。	
	3. これからの会社経営には CSR（企業の社会的責任）、CSV（社会価値と企業価値の両立）、SDGs の視点が不可欠なのでアドバイスや具体的な地域とのつながりが欲しい。	
	4. 仲間を集めて団体を立ち上げたいが、活動場所や事務所が見つからない。運営方法のアドバイスも欲しい。	
	5. 公園の中で親子で作ったものをフリマボックスで販売したい。子ども食堂も手伝いたい。	

(2) イベント・事業の例

1. 「いっしょにつくろう！わいわい食堂」

自立して就労を学ぶ障がい者の方も参加して皆でワイワイ楽しく作って食べる食堂。

2. 「つなぐ おにぎり食堂」

おにぎりを通じて食育・子育て応援や孤食解消につなげていく食堂。

3. 「ふるさと料理と交流の会/食堂」

山口瓦そば、千葉つみれ汁、香川讃岐うどん、新潟ののっぺ汁、秋田しょつつる鍋、福井なまぐさ汁等、全国のふるさと料理に挑戦する。独りのキッチンから抜け出し皆とつながり交流する食堂。

4. 「みんなのひろばリーチ」

皆でお茶を飲みながら心地よい時間を過ごす。小さなお子様連れでも一人での参加も。

5. 「ソーシャルカフェ」

日本の食糧事情について考える。

6. 「あすパークこどもリビング」

自ら考える子を育むこどもの居場所。(神戸市補助事業)

7. 「夏休み企画・バンド&楽器体験」

色々な楽器を演奏してみる。

8. 「夏休み企画・ハンドメイド体験」

①キラキラ・ホルダーを作る

②貯金箱を作る

③ビーズブレスレットを作る

9. 「演劇のレッスン」

違う自分を見つけてみる。

10. 「カリンバ作り体験」

アフリカ・ジンバブエ発祥の民族楽器を作って、演奏を体験。

11. 「楽しく学ぼう！カブトムシ講座」

カブトムシのお話を聞き、カブトムシの家を作る。

12. 「あすパークライブラリー企画 トワイライト企画」

真夏の夜の怪談話「子供の頃に聞いた話、体験、本や映画の感想。」

13. 「寄り処やまとの森 元気に夏を乗り切るからだ作り」

椅子ヨガに取り組む。

14. 「みんなのひろばきらきら」

玉葱の皮で“染め”を体験する。

15. 「でゅあるコーラス」

楽しく歌う会。ギター伴奏で自分の歌いたい曲も皆と一緒に。

16. 気練りの会（気功）

簡単な動きで気を巡らせ疲れ知らずに。

17. 「ふるさと料理と交流の会・食堂」

ふるさと料理を自ら作る。故郷語りでわいわい会食。

18. 「障がい者と家族の憩いのサロン」

障がい者の親や兄弟姉妹が悩みや思いを語り合い、ホッとできる場。

19. 「なだ実践ゼミ」

“なだ”を知り仲間に会い活動を始める。灘区が誰もが住みやすいまちになることを目指す。昨年度は30名が受講、修了生により4グループが立ち上がりつつある。(子ども交流サポート・多世代交流居場所・防災・企業連携)

20. 「中間支援人材研修事業」

地域課題の把握を起点とし、講座で初めて出会った受講生たちが目的ごとにグループを組成し、主体的に課題解決の担い手となっていくための伴走支援を行う。多世代交流の居場所、高齢者の生活支援、こども食堂など輩出してきた団体数は、1,000を超える。

○グループ創出の流れ

地域調査→講座→企画→仲間づくり→活動お試し→実施→組織化→事業評価

(3) 施設の設備

○オープンスペース

セミナーや教室などの開催に利できるスペース。キッチンスペースと併用し子ども食堂を伴うイベントも可能。

○キッチンスペース

IH、冷蔵庫、オーブンレンジ、電気ポット、調理器具、食器が整備されたスペース。

○オフィススペース

Wi-Fi、複合機などが利用可能。団体の住所登録が可能で郵便物を受け取ることも可能。コーディネーターや利用者となつなげられる場。

○フリマボックス

ハンドメイド製品やグッズを試験販売できるコーナー。

○カフェ・情報コーナー

○ギャラリーコーナー

3、質疑応答

Q：飯田市にも「ムトス飯田助成事業」があるが「地域や社会のために何かしたい」を応援するのが目的となっている。その目的は同じだが「課題解決」と明言している点についてその背景などは？

A：多くは「つながりづくり、賑わいづくり」をする活動だが、それには課題解決という意識がなければ何かを生み出すことができないのではないかな。

やはり震災を体験し、水もないゼロどころかマイナスのところからの助け合いの経験があるからボランティアやNPO設立につながったのではないかな。

Q：セミナーやゼミに参加される方々の年齢層は？

	A： 60 代、70 代の高齢者が多い。若者が少ないことが課題。
感想（まとめ）・市に活かせること等	4、今後飯田市に活かせること等 ・「何か地域のためにしたい」と思う人が発足する良い環境である。 ・人が多く交流が少ない都会だからできるのか？飯田市には「ムトス」があるので NPO 立ち上げまでしなくても出来るのか？ ・人口減を迎え、予算と人材が乏しいからできない困りごとは地域にたくさん出てくる。これを市主体でやっていくことは無理である。ボランティアや NPO など人口減社会にあり得る形を作ってきたい。 ・子育て政策や福祉政策などで、ボランティアの力が必要となる場面が多いが、NPO 法人とすることが持続可能な体制づくりにつながるか研究が必要。 ・NPO 法人の立上げを助けるという視点。 ・地域課題解決のためのトライアル拠点とされているが、飯田市とすると公民館事業に近いと感じた。
(3) この事業実施後の対応及び方向性	
○会派として調査継続中。	

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派新政いいだ (文責：森本 紘司)	支出伝票No.	
事 業 名	兵庫県洲本市 地域に貢献する再生可能エネルギー事業		
事業区分 (該当へ〇)	① <u>調査研究費</u> ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

洲本市では2014年に洲本市バイオマス産業都市構想を策定し、バイオマス産業の創出・育成による地域産業の振興ならびに雇用創出、及びバイオマスをはじめとした地域自立分散型エネルギー供給体制の強化による環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指す先進的な取り組みであり、調査研究先として選定した。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年 8月 1日 (金) 9時50分～ 11時30分	洲本市役所 企画情報部企画課政策調整係 高橋 壱

1、視察先（市町村等）の概要

【兵庫県洲本市】

人口 40,613人 (毎年約600人減) 高齢化率 37% (2015年3月末時点)
 面積 182.38km² (淡路島の30.6%、県土の2.2%を占める)
 議員定数 18人

平成10年の明石大橋海峡大橋開通により淡路島と本州は陸続きになり、平成18年に洲本市・五色町の合併。洲本市は淡路島の中心都市として人・もの・情報が集まる重要な拠点となっている。

2、視察内容

「地域に貢献する再生可能エネルギー事業のバイオマス産業都市構想」について

(1) 取り組み概要

【洲本市バイオマス産業都市構想の事業】

【目的】

- ・再生エネルギーの調達
- ・エネルギー自給率の向上
- ・温室効果ガスの削減
- ・廃棄物の削減

“バイオマスでつながる環境未来
の里・すもと”の実現

①竹資源の有効活用事業

- ・竹は繁殖力の強さから放置竹林化が進み、生物多様性や保水力の低下、土砂災害の危険性が増大を招くとともに農作物を食い荒らす野生動物の住処になるなど問題になっている。このことから洲本市では、「バイオマス産業都市構想」、兵庫県では「あわじ竹資源エネルギー化5か年計画」を策定し島内で年間500tの竹チップを製造利用すると目標にした。
- ・竹チップの出口確保と大量消費の為、国や県の補助金を活用し竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーを温浴施設に設置。
- ・竹の伐採・・・島内各地の住民組織やNPO法人
- ・竹の条件・・・太さ5cm以上の孟宗竹で長さ4mにそろえる。
- ・竹の買い取り・・・引き取り5円/kg、持ち込み10円/kg
- ・竹チップ販売単価・・・約30円/kg

報告内容・実施したこと

～竹の利活用に関する課題～

- ・ボイラー設備の劣化が想定よりも早い。
- ・竹チップ製造に関する三者の採算面が厳しい。
- ・燃料化以外での利活用の推進（メンマなど）。

②菜の花・ひまわりエコプロジェクトおよびBDF、B5燃料事業の拡大

※BDF…バイオディーゼル燃料、B5…経由に5%以下の割合でBDFを混合した燃料

- ・元々は景観用として栽培を始め、後に搾油の可能性に気付く 2002 年から菜の花・ひまわりエコプロジェクトの推進開始（ひまわりは後に中止）。
- ・コンバインで収穫し菜種の乾燥・調整を行い、昔ながらの圧搾法で搾油する。搾油されたものは食用油になり、安心安全な地元特産品となっている。
- ・家庭で使用済みになった天ぷら油は分別回収され、ごみ減量や水質保全になっている。回収された油は BDF の工場で、化石燃料に頼らない再生可能なバイオマスエネルギーへ精製される。
- ・精製された BDF は経由の代替燃料として利用される。
市のマイクロバスの燃料にも使用されていたが、故障が多く現在は使用されていない。
- ・搾油されて残った菜種粕は肥料や飼料になり、良質な土づくりに貢献している。
- ・このプロジェクトにより、洲本市内で一連の環境サイクルが完成されている。

③微細藻類の有効活用事業

④バイオガス発電事業

⑤BTL 製造事業

事業化に至っていない

【龍谷大学との連携による再エネ推進】

- ・龍谷大学は再生可能エネルギーの活用による地域活性化をテーマに洲本市で 2013 年から活動している。

①活動内容

ア) 自家消費型小水力発電施設の設置

- ・13 人の集落の農業水路の落差を利用し水車を回し発電しており、集落の LED 街頭や防犯カメラに使用。視察も多く、当初の賑わいづくりの目的も達成している。

イ) 農業用ため池に浮かぶソーラー発電所設置

- ・地域貢献型再生エネルギー事業の推進として農業用ため池に浮かぶソーラー発電所を設置し、売電利益を全額地域に還元されており地域活性化の為に活用されている。

再生可能エネルギーは地域活性化のツールのひとつ

3、質疑応答

Q、住民や企業からの反応は？

A、菜の花プロジェクトは見える形での取り組みが多く住民からの理解を得ることができたが、ため池プロジェクトには反対意見が多かった。地域還元型でも反対の声はある。企業からの反応はほぼない状態。

Q、地域の農業・漁業・観光とのエネルギー連携は？

A、BDFや電気を漁船やトラクターに使用したが技術的に問題があり中止している。

Q、竹チップ事業の採算は？

A、単体事業で収支を把握するのは難しいが、温泉施設で燃料を購入するよりは

	安価。 Q、竹伐採事業で、竹は抑制できているのか？ A、淡路島全体の竹林は2,600ha、ボイラー事業の伐採は4・5haなので抑制効果は少ない。 Q、竹を伐採する人材の確保は？ A、採算が取れにくく、高齢化も進み継続が厳しい状況。 Q、BDF事業の現状は？ A、市の管轄では難しく、5・6年前から尼崎の業者に任せている。 洲本市で集まる廃油は約1万リットルで、BDFの使用方法は業者に任せている。過去には洲本市でも古いマイクロバスに使用していたが故障が多く使用を止めた。 価格も有償にすると責任が出るので、実験として無償で渡していた。
感想（まとめ）・市に活かせること等	4、感想 ・身近なところで幅広く、再生可能エネルギー事業に取り組んでいることから、住民の再エネに対する意識醸成が進む。 ・竹を燃料にするという取組にて、伐採した竹の後利用として竹棚、竹炭、メンマ、竹を活用したワークショップイベントを飯田も行っているが、燃料として活用できるか検討したい。だが、コスト面や伐採する人材確保など課題は多い。 ・竹林整備は飯田市でも力を入れているが、チップとして利用するには原料の調達や乾燥、ボイラーのメンテナンスなど課題も多い。 ・飯田市各地において問題となっている放置竹林の課題解決に向けて、洲本市の取組は先進事例として大変参考になった。 ・構想から10年が経過して構想の見直しが必要だと述べていた。新しい社会への転換はそう簡単には進まない。行動、反省の繰り返しを経て新しい何かが見えてくる。未来への方向性は間違っていないと思うので、飯田市に合う何かを見つけていきたい。 ・地域内のステークホルダーを有機的につなげ、洲本市だからこそできるアプローチで課題解決にチャレンジしている点が参考になった。 ・再生可能エネルギーの利活用の取組は「地域活性化のためのツールの一つ」である。という考え方について、大変共感した。 ・先進的に市の運営としてバイオ燃料を取り扱ったが、今は民間委託。市のバス（ディーゼル機関）に使用していたが、故障が多く今は使用していない ・ウェルネスパークは大規模な施設であり運営維持は大変そうである。 ・竹のバイオマスボイラーを使用しているが、当初より竹伐採ができていないとの事。竹の反n油も少なく苦慮している模様。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。